

第七回荒川区区政改革懇談会

グループ討議会議録：真紅

【日時】

12月7日（水）19：30～21：30

【次第】

ステップ1：はじめに

ステップ2：今後の話し合いの進め方を話し合おう

【場所】

荒川区役所 議員待遇者室

ステップ3：こうなって欲しいまちの姿や課題、対応方向を話し合おう

ステップ4：今日の話し合いの結果を確認しよう

ステップ5：その他

ステップ1：はじめに

コンサルタントより、今回の話し合いの説明がなされた。また、前回の話し合いの内容確認がなされた。

ステップ2：今後の話し合いの進め方を話し合おう

前回の話し合いで、意見等がある委員はペーパーを作成し、提出することになっていた。2名の委員からペーパーの提出がなされた。

【委員A氏ペーパー説明】

- 基本構想の位置付けと進め方を考えると、「区政の憲法」、「区政のビジョンと戦略構想」の他に、「区政全体の課題設定(アジェンダ・セッティング)及び政策評価基準」も含まれると思う。
- 荒川区を全体的に見ていると、行政と区民がともに協力していかなければならない課題がある。
- 「協働」とは、地域の課題解決に向けて、区と区民が協議して意思決定をし、お互いに実行の責任を共有することである。「協働」ということを、基本構想の重要な骨組みに取り入れてほしい。
- 「協働」を実現させるためには、住民同士のコミュニケーションを図ることが重要である。

【委員B氏ペーパー説明】

- 50年後、100年後の荒川を見据えて、外部からの視点で今後の荒川区を考えていきたい。
- 荒川区だけでなく、「首都圏の中のあらかわ」、「日本の中のあらかわ」、「アジアの中のあらかわ」、「世界の中のあらかわ」を考えていきたい。
- 「行ってよし」、「住んでよし」、「仲よし」の3本柱で考えている。前回までの話し合いに出ていた「いってみたい、すんでみたい、顔のみえるあらかわ」と、基本的な考え方は一緒である。

- 首都圏は、町の良し悪しで人の流れが変わるので、より良いあらかわにしていきたいと思い、「人や企業は、引っ越すことができる。あらかわは引っ越すことができない。」という一文を入れた。

ステップ3：こうなって欲しいまちの姿や課題、対応方向を話し合おう

2名の委員のペーパーを基に議論を進めることとした。

- 協働については、骨組みだけを話し合っても仕方ないのではないか。モデルを提示することが必要だと思う。
- コミュニティは重要だが、昔からの町会と新しいコミュニティの共存は、とても難しい面もある。荒川区は下町気質がある反面、排他的なところがある。子供がいない人は、町会等のコミュニティに参加しづらい面がある。子ども以外の接点が欲しい。
- 町会にこだわらなくても、カルチャーセンター等の趣味や文化面でのつながりでも良いのではないか。
- コミュニティに属さない、エアポケットに入ってしまう人がいるので、対策が必要だ。
- 小さい町会に属しているが、役員・当番等が常に回ってくる状態である。町会の区割りの再編についても検討が必要なのではないか。
- 町会は、そもそも、どういう組織なのか。町会の切り口がよくわからない。
- 基本的に任意の団体。地域の違いで町会が分かれる場合もある。
- 若い一人暮らしの者にとって、町会に入る必要性が感じられない。必要な目的のためだけに活動できるような、ドライなコミュニティも出来つつあるのではないか。
- いろいろな種類のコミュニティを増やして、選択肢を増やしていかなければならない。
- 行政は町会にどのくらい関わっているのか。
回答 行政は町会に対して、補助金を出している。
- 区の目指すべき将来像やその実現に向けた道筋を考えてみたらどうか。
- あと2回しか懇談会がないので、共通理念や区の将来像についてまとめる時期なのではないか。
- 今までの話し合いを振り返ってみると、コミュニティに関しての話し合いが足りないと思うので、もう少し議論したい。
- 防災・防犯に関しても、コミュニティが充実していることが大切である。顔見知り近くにいるのが重要なファクターである。それによって、地域の基礎体力が培われる。
- 基本構想をつくるためには、区のバックボーンを意識して、提言すべきである。
- 地域の力をつけて、コミュニティの土台を強くしていくために、基本構想の中に「基礎体力」という言葉を入れたい。
- 誰もがわかる言葉で、基本構想をつくっていくことも大切である。
- 我々のような一般の区民が普段使っているような、わかりやすく直截的な言葉で表現し、区政に反映していきたい。
- 荒川区のスローガンのようなものが良いと思う。
- 豊洲の駅のポスターにあった「近未来都市・豊洲」はとてもわかりやすく、イメージしやすかった。

- 進む方向性を一言で表したい。
- 荒川区の区長や区の職員に熱い魂が感じられない。東京都の石原知事のようなわかりやすいアピールをすれば、区民も盛り上がると思う。
- 区長が荒川区のためにしていることを、もっとアピールしてほしい。消防署員や警察署員が仕事に誇りを持っているように、区役所の職員も区を動かしているという意識を持っていて欲しい。
- 荒川区の中で旗振りをしてくれるようなキーパーソンが欲しい。
- 荒川区はPRなどをしていると思うが、荒川区民が情報を得ようとしていない面もある。行政批判で盛り上がるのではなく、自分自身で区とうまく協力する方法を考えた方が良い。
- 基本構想を策定するためには、目標をどういう所までもっていくか、どういうものを出していけば良いか、具体的に考えていくべきだ。

ステップ4：今日の話し合いの結果を確認しよう

- 委員 A 氏の案にあった 3 本柱を中心に、言葉が足りないところを出し合ったら良いのではないかな。
- まとまりすぎて、当たり前すぎると思う。もう少し具体的でわかりやすく、区民の身近な生活に即した生きた言葉を使いたい。
- 今までの話し合いの内容で欠けているものがあれば、アイデアを出して欲しい。

ステップ5：その他

次回日程は1月19日（木）19:30 から。

以上